金沢区生涯学習“わ”の会

会　報　第 31号

平成 21(2009)年 11 月

ホームページ：http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/ メール：wawawanokai@nifmail.jp

来年度以降の学習会内容、２月の公開歴史講座(開催日変更と内容)、継続会員の受付けなどのお知らせを載せております。

目　次

運営委員会からのお知らせ

2　来年度以降の学習会について

3　「公開歴史講座」開催日変更のお知らせ

3　継続会員の手続きはお済みですか ？

10 周年記念事業委員会からのお知らせ

4　10周年記念事業の進捗状況(5)

かなざわの歴史事典編集委員会からの寄稿

6　かねざわの歴史事典(補訂版)の「付属資料」編集

かなざわの歴史事典

編集副委員長　中島　勇

学　習　会

8　学習会の感想(アンケート結果)

分科会代表からの便り

11　「浮雲俳句会」抄録 NO 7

「浮雲俳句会」代表　北野　清市

会員の寄稿

15　ポンコツ人生を楽しく生きよう

内田　新二

金沢の歴史研究

16　「かねざわの歴史事典」余話 2

「土地宝典」について

歴史事典編集委員長　熊谷　哲

行事予定

18　2010年2月までの予定

運営委員会からのお知らせ

来年度以降の学習会について

本年度の通常の学習会は今回の「戦国時代の金沢」をもって終了、後は来年 2 月の公開歴史講座を残すだけになりました。

本年度の学習会への出席率は各回とも７０パーセント強と高い。しかし、あらためて“わ”の会創立以来の１１年間の学習会内容を遡って分析したところ金沢の歴史を時系列的に、かつ、一貫性を持って学習するとの面が不十分だといえます。

また、“わ”の会の創設目的の一つである「金沢の歴史を学ぶ」は貫かれているものの学習会のテーマの選定に当っては一部の講師に学習会テーマまでを委ねてしまい、その結果、主体的な企画立案に課題を残した。

そこで、更なる会員の満足度の向上と共にマンネリ化に陥らないようにするには如何に取組んでいくのが良いのか、会員の声を直接聞くこととし、去る７月に会員有志と運営委員からなる話し合いの場を設けご意見を拝聴しました。頂いた意見を踏まえ、下記の様なアプローチ案(Ⅰ～Ⅲ)を策定、来年以降の学習会テーマ選定に極力反映させることにしました。

よって、来年度以降は公開歴史講座を含め 8 講座うち 2 講座を「原始・古代、中世の金沢」とし、シリーズ化する。

先ず来年度は、原始･古代の金沢についてそれぞれ 1 講座を行なう。残り 6 講座のうち、会員による金沢の歴史研究等の発表及び県立金沢文庫訪問講座と探訪の 3 講座は既に定例化しており、残り 3 講座についてアプローチ案Ⅱ及びその時々のテーマなどを幅広く検討し採用したい。

来年度以降の学習会の方向性とテーマについて上に記述したような形で進めたく考えておりますが、今後とも皆様方からのご意見を伺いながら満足度の高い学習会を目指します。

《アプローチ案》

Ⅰ原始・古代、中世をシリーズ的にアプローチ

①原始・古代(2010 年度、講師は小宮氏・平野氏) → ②頼朝挙兵(三浦一族)及び鎌倉幕府(頼朝･政子)と金沢(2011 年度、講師は盛本氏、鎌倉国宝館内田氏など) → ③金沢北条と鎌倉幕府(2012 年度、講師は金沢文庫学芸員) → ④足利尊氏、室町幕府、永享の乱(金沢合戦)(2013 年度、講師は未定) → ⑤後北条と金沢(2014 年度、講師は未定)(上記のテーマ、講師、2011 年度以降については案の段階である)

Ⅱ 個々にアプローチ

①近世・近代の歴史を個々のテーマで捉える
例として、
(ａ)徳川幕府時代の金沢の支配者の変遷
(ｂ)要塞区域に指定された時代の金沢
(ｃ)徳川家康と金沢
②習俗(金沢の郷土芸能など)
③金沢の地域史、文化・芸術史、政治･経済･社会史
④生活・環境に関連したもの
⑤その他
(ａ)金沢の歴史年表からヒントを見つける
(ｂ)吾妻鏡・新編武蔵風土記稿に沿って金沢の歴史を考査
(ｃ)『**金沢区諸家文書**』に沿って、古文書の入門編
(ｄ)横浜･金沢の未来展望(100 周年の頃の金沢は)
(ｅ)京浜急行など交通機関の歴史について

Ⅲ 探訪

①“わ”の会探訪未了地域の釜利谷を歩く

②金沢の仏像・石像を学びながら歩く　　④金沢地先埋め立て地域を歩く
③金沢道(保土ヶ谷道)・浦賀道を歩く

「公開歴史講座」開催日変更のお知らせ

毎年実施しております「特別公開講座」を本年度も 2 月 20 日に「公開歴史講座」と呼称を改めて開催いたします。今回は、昨年度もこの公開講座で講演していただきました横浜市歴史博物館 主任学芸員の斉藤　司 氏にお願いする事と致しました。多くの会員のご聴講をお願い申し上げます。

＜ 公開歴史講座 実施要領 ＞

- **日　　時**：2010 年２月**20 日**（土）９：30～12：00
  ※総会資料及び学習会チラシで２月 13 日開催とお知らせしておりましたが、会場の都合で２０日に変更になりました。
- **会　　場**：能見台地区センター　多目的室
- **テ　ー　マ**：「江戸名所図会」にみる金沢八景
- **講　　師**：横浜市歴史博物館　主任学芸員　斉藤　司　氏
- **参 加 者**：“わ”の会 会員及び市民
- **会　　費**：“わ”の会 会員 300 円、市民 500 円
- **受付・締切**：１１月 14 日から受付けを始め、締切りは１２月 18 日。
  電話申込みの方は運営委員の小岩まで、(☎ 045-783-0474)
  メールの方は wawawanokai@nifmail.jp まで

継続会員の手続きはお済ですか？

平成 22 年度の継続会員は 11 月６日実施の第６回学習会（たんぼう）より受付を行っております。継続を希望され、まだ手続きをされていない方は至急継続手続きを終えられます様お願い致します。

- 締　　切：11 月 30 日まで
- 会　　費：3,０００円
- 振込口座：横浜銀行　金沢支店(店番号 351)　普通口座１３２４２１９
  金沢区生涯学習わの会　代表　小俣　悦男

10周年記念事業の進捗状況（5）

補訂版「かねざわの歴史事典」

補訂版『かねざわの歴史事典』編集について8月以降の進捗状況を報告します。

①8月以降6回編集委員会を開催。

②本文については追加項目を加えた全項目について第1次精査を9月に終了した。PCによるまとめを行った結果、A4 の 1 段組みで 162 頁になった。10 月から第 2 次の精査に入る。付属資料を含めた記述内容の整合と引用項目の追加なども行う。年内には2段組み・ページ番号付け・耳(インデックス)付けなどの PC 作業に取り掛かる目標。

③付属資料については、(a)歴史年表と文化財リストなどの充実、(b)石塔・神社建築・区内社寺一覧・近世の支配者の変遷・明治以降の行政の変遷と新町名・古地名一覧・金沢関連諸家の系図などの新資料の追加、を行うための作業推進中。10月末での進捗度は約80%。

④11 月以降は上記の本文や付属資料などに加え、表紙デザイン・巻頭言・巻末文書などの付帯部分の原稿作成と全体の構成決定作業に取り掛かる。

⑤10月14日に初版時の印刷業者の工場を委員全員で視察、印刷プロセスの理解を深めると共に、印刷の際の原稿の電子的送付について道筋をつけた。

変わりゆく横浜・金沢の風景

我が街・金沢の現在の風景の内、後世へ残したい風景を委員全員が探し求め、 約４００項目を列挙したが、重複の除去や併合などによりそれらを厳選の上、現在約２５０項目の風景に絞り込んだ。

それらの一項目の風景に対して、タイトルとなるべき映像（カンバンと称している）を選別し、関連する映像（WEB と称している）を最大１０葉程度選別しつつある。

さらにその各々の風景の時代背景や成り立ちなどを説明する文言を作成してカンバン映像に付記し、HP(HomePage)閲覧者に解り易い内容にしつつある。

何しろ、４００項目の風景、そして映像はその１０～２０倍程度あり、選別といっても生易しい作業ではなく、8月以降は週1回の委員会を開催し、委員全員納得の上、 映像および文言の選別や推敲を行っている。これらの作業は11 月に終了し、次の課題としては閲覧者のアクセス容易性に配慮した HP 設計の検討に入る。

現在、風景項目それ自体からのアクセスと金沢区地図上からのアクセスの２方法を中心に細部仕様の検討を行う予定である。

2010 年 2 月には記念事業委員会への内覧会を実施して創立 10 周年記念事業の一環としての活動に終止符を打つことを提案したい。

ただしこの事業企画は書籍刊行とは異なり、発行して終了するという性格のものでは 無い。

むしろここが出発点である。今後は閲覧者のご意見や提供下さる風景映像などを この HP に取り込み、また私ら自身が常に金沢の風景の変化に注意を怠ることなく、新たに誕生した風景・消去されゆく風景を探し求め記録に残してゆかねばならない。

とりあえず新年度 2010 年 5 月の総会・第１回学習会において、会員諸兄姉へ本システムのお披露目を行い、この HP 作成や運営にご興味のあるナカマを募集し、新たなる組織で活動を推進してゆこうと考えている。

１０周年記念誌「“わ”の会１０年のあゆみ」

８月下旬から、“わ”の会全体に関わる歴史執筆の準備を再開し、この３ヶ月は次のような資料収集活動を行った。

“わ”の会の基本活動である学習会のテーマ、講師、開催日時、開催場所、会員総数と学習会への参加状況、感想などの歴史を端的に示す資料として、１０年間の会員募集チラシ、会員名簿、学習会の出席記録、アンケート集計結果などを収集。会員名簿からは会員数の他に、男女比、平均年齢、居住地域などの分析が可能である。また、公開講座の歴史資料として、会員および市民に対する参加募集チラシと参加者名簿を収集。

会報については、ページ数、表紙体裁、本文体裁、内容の変遷を調べるために、全バックナンバーを収集。ホームページについては、容量、アクセス数、内容の変遷を明らかにするために、バックアップのための保存資料や統計記録を収集。

特別な事業である５周年および１０周年記念事業の歴史を調べるために議事録やチラシなどの関連資料を収集。

上記の学習会の企画と実行、会報発行、ホームページ運用などを担う運営委員会、会報編集委員会、ホームページ委員会、探訪実行委員会、５周年等の記念事業員会、分科会などの運営組織や役員の変遷を調べる資料として、各年度の総会資料を収集。

今後は、収集した資料を整理して年末をめどに図表化、文章化を行う予定である。

「かねざわの歴史事典」余話 1

歴史事典(補訂版)の「付属資料」編集

かねざわの歴史事典編集副委員長　中島　勇

既刊の『かねざわの歴史事典』には巻末に参考用として、次の７項目の付属資料が収められている。「和暦、西暦対照表」、「金沢の歴史年表」、「金沢札所」、「金沢区の指定文化財」、「宝筐印塔と五輪塔」、「鳥居」、「参考文献と資料」であり、今回補訂版の発刊に向けて事典本文の見直し、追記、新項目の掘り起こしなどを主体に編集中であるが、同時に付属資料の充実も大きなテーマとして取り上げて作業中です。

現在、掲載されている付属資料７項目に付いても、内容の見直しや追記、新資料の添付などの作業を進めております。

「金沢の歴史年表」

担当委員の抽出した総ての項目を基に、各委員が日本史や世界史を見直すほど再勉強をして、取捨選択、検討を重ねて記載項目の選定をした。また各年代のページ下段に国内外の主なできごとも記載した。

「金沢区の指定文化財」

見直しにあたって、横浜市教育委員会文化財課の親切な情報提供を受けた。新たに指定されたものの追記、指定区分ごとの件数、区内の全数と横浜市の全数との比較表なども追記した。

「石塔」

「宝筐印塔と五輪塔」から名称変更して、見やすく編集した。

「鳥居」

絵図の差し替えをして、説明文も充実した。

更に、今回の補訂版付属資料の目玉である新項目で次の６項目が提案され現在、調査、作文、編集を分担して作業中であります。その項目は、「神社建築」、「系図」、「金沢の社寺一覧」、「近世金沢の支配者」、「金沢地域の行政の変遷」、「金沢の古い地名」である。次に新項目がどの様な内容であるかの概要を説明いたします。

「神社建築」

基本となる４つの様式(神明造、大社造、権現造、流造)を絵図入りで紹介して、それぞれの様式ごとに代表例と区内にある神社名を記載して、神社建築を解かりやすく説明している。神社建築絵図を限られたスペースにＰＣでの絵図挿入に苦労したが、結局参考絵図の切り貼り手作業となった。

「系図」

金沢に関連の深い諸家の略系図と、その諸家の祖となる清和源氏、桓武平氏を含め、北條氏、足利氏、伊丹氏、上杉氏、小田原北條氏、金沢北條氏、里見氏、永島氏、畠山氏、三浦氏、米倉氏の13 諸家を記載している。この系図作成に当たっては、古典文献(『尊卑分脈』『寛政重修家譜』など)の調査のほか各家の歴史を調べた。例えば米倉氏の系図では、横浜開港資料館蔵の『米倉家文書』系図関連の総てを実見した。系図の範囲を何処までにするかを議論しながら、狭いスペースにＰＣでの作図挿入に苦労している。

「金沢の社寺一覧」

区内に現存する神社 12 ヵ所、寺院 30 ヵ所の名称と所在地、寺院にあっては、その宗派を一覧表に纏めた。さらに明治以降に廃寺となっているもの 16 寺院の名称、宗派、存在した場所の一覧も記載し区内にある社寺の概要が判るようにした。

「近世金沢の支配者」

今回特に重点を置いた追加付属資料で、江戸時代の初期から明治に至るまでの金沢地域の支配者を、各村ごとに年代を追って一覧表として纏めた。記録に残っている代官、旗本は出来るだけ記載して、その就任年も付記した。しかしながら全員を書き込むことは無理なので、比較的就任年数の長い人、特に金沢に縁の深い人を代表的に記載してある。自分の住んでいる所が、代々どのような人が支配していたのか、年代を追って見るのも興味深いものでしょう。

一覧表の作成にあたっては、県史、藩史、『永島家文書』に代表される旧家の文書などの多くの資料を参考にしながら幅広く調査し、表として見やすく、正確に、理解しやすい形にするための工夫を凝らして拙いＰＣ操作で仕上げた。

「金沢地域の行政の変遷」

明治維新以降の金沢地域の行政の変遷を、「金沢区」誕生までの各村々が離合集散した過程を一覧表に纏めた。また区内の現町名ごとに設置年、設置の経緯を示し、参考として「旧村名」も入れた判りやすい表に編集した。

自分達の町が、どの様な道を辿って今日あるかを見るのも楽しいものである。

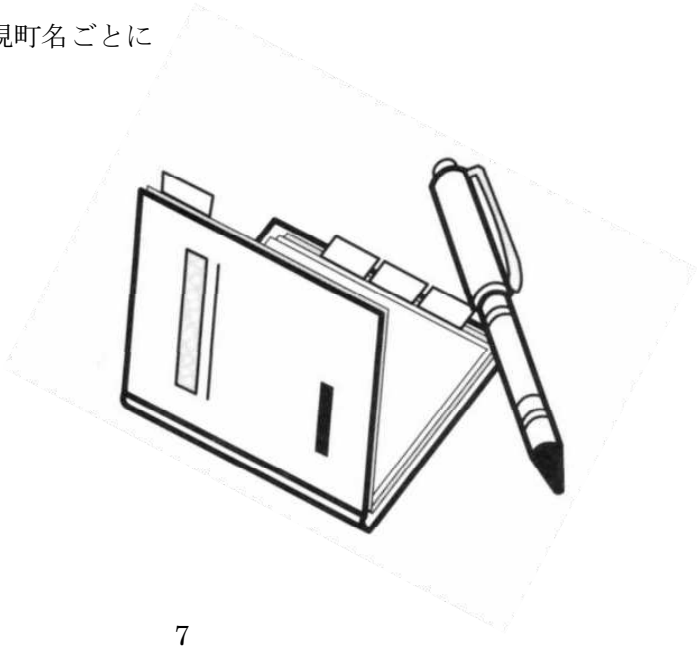
「金沢の古い地名」

区内の古い地名を、後世に記録として残す事も目的の一つとして編集した。昭和初期の地域名（字、小字）については地図や土地宝典を参考として、現在の町名と対比している。江戸時代以降の地名も古い地誌や旧家の古文書などの文献でわかる範囲で表中に記載している。

この資料作成に当たっては、県立公文書館、市立中央図書館、県立金沢文庫で土地宝典を徹底調査した。また古文献のほか『鎌倉郡村誌』『松本家文書』『布川家文書』『鹿島家文書』『小泉家文書』などを、横浜開港資料館などに行き調査した。

現在の町名との対比をするのに古地図は境界線が明確ではなく、正確に現在地を特定するのに苦労しましたが、今でも橋、公園、交差点、バス停、路地などに古い地名が残っているので大変参考になりました。

以上が「付属資料」の概要でありますが、編纂は道半ばであり委員一同が完成に向かって頑張っております。



学　習　会

学習会の感想　（アンケート結果）

第４回学習会　「幕末明治の横浜・金沢」

開催日：2009 年 8 月 22 日（晴れ）
場　所：県立金沢文庫　大会議室
講　師：県立金沢文庫　主任学芸員　山地　純　氏
出席者：会員８０名　ビジター２名　合計８２名　会員の参加率：６５．５％

①　全体評価

大変良かった：１０　良かった：１０　普通：８　つまらなかった：１

・声の大きさも良く、分かりやすく、金沢の当時の様子(含む裏話的な話)がとても面白かった(5)
・時間が短かった。もっと話を聴きたかった(4)
・親しみやすく自然に話をしてくれた(2)
・ペリーを身近に感じた(2)
・図録を購入しなかったので、多々図録に沿った話になった事から、理解しきれなかった

②最も印象深かったこと

・ミンストレル ショウの話や音楽「草競馬」、興味深く面白く聴かせてもらった(10)
・金沢文庫の変遷や館蔵資料のこと興味深く聴いた(5)
・音楽などを用い当時の様子を少しでも分かりやすく伝えようされた姿勢(3)
・金沢の人々が開港に大いに関わったこと(2)
・ペリーが金沢のことを調べていたらしいこと

山地　純 講師

③もっと詳しく知りたいこと

・当時の金沢地域庶民の生活について(3)
・ペリー艦隊来航時の野島上陸について
・図録の絵図の解説、もう少し時間を掛けて聴きたかった

④山地先生にご講演をいただきたいテーマ

・鎌倉時代以降の歴史全般について
・金沢の残る記録、伝説
・六浦港について
・仏教の話

第５回学習会 「開国日本と横浜中華街」

開催日：2009 年 9 月 12 日（晴れ）
場　所：金沢地区センター　大会議室
講　師：横浜開港資料館　主任調査研究員　伊藤　泉美 氏
出席者：会員　78 名　ビジター1　名　合計 79 名　会員の参加率：63．9%

① 全体評価

大変良かった：４１　良かった：９　普通：０　つまらなかった：０

・ビジュアル対応していただいたので理解し易かった(14)
・中華街の形成と華僑の果たした役割が理解できた(9)
・具体的かつ簡潔明瞭で理解し易かった(8)
・講師、テーマとも新鮮さを感じた(2)
・金沢関係の話が良かった(2)
・中華街に関してこれだけ詳しく聞けたのは初めて(2)
・身近な題材で興味深かった(2)

伊藤 泉美講師

②最も印象深かったこと

・孫文富岡上陸とその記録の紹介(11)
・中国人が開港時の発展に果たした役割(11)
・中華街が東西南北の方位で街づくりがされていた話(10)
・ピアノ、当初の生産拠点は横浜であった事。周ピアノの遍歴と波紋の広がり興味深く聴いた(8)

③もっと詳しく知りたいこと

・横浜開港の全図などいくつもの絵が紹介されたが実物を見たい、如何したらよいのか。
・革命家孫文を日本政府が入国許可した事情や日本における活動は
・中華街、横浜・神戸・長崎の比較
・横浜の現在の地図と明治、大正、昭和の地図の比較、出来ればビジュアル対応で

④伊藤先生にご講演をいただきたいテーマ

・パートⅡ(金沢関連の話を含め)をお願いしたい(8)
・開国直後の横浜における欧米人の生活、風俗
・横浜における華僑の活動の過去と現在。中華街そのものの発展と歴史
・　開港、新田などどのように検討され、決定されたのか、また、関係した人物は

⑤学習会、運営委員会等に関するもの

・若手の講師をもう少し増やし馴染みのベテラン講師とのバランスを。テーマも金沢中心に横浜まで広げて欲しい
・冷房、前半は強すぎた。こまめなコントロールを
・学習会会場、同一場所で行って欲しい
・前回も今回も司会者の言葉がはっきりしないので聴き取れない。言葉を明確にして全員に伝わるようにして欲しい

第６回学習会　探訪-「はまどり」乗船と市内史跡探訪」

開催日：2009 年 11 月 6 日（快晴）
場　所：はまどり乗船～大桟橋～市内の史跡探訪～横浜公園(解散)
案　内：探訪実行委員会
出席者：会員 64 名　ビジター14 名　合計 78 名　会員の参加率：52．4%

① 全体評価

大変良かった：２０　良かった：９　普通：　０　つまらなかった：０

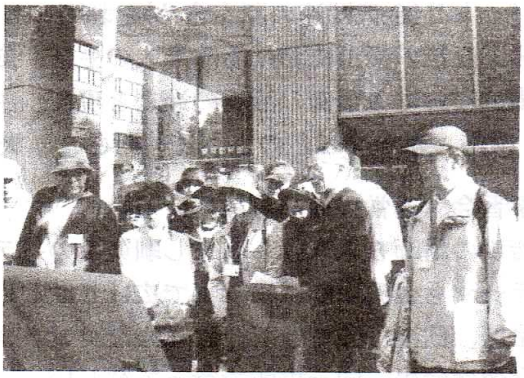
・好天に恵まれ､港内の見学、印象深く楽しかった(7)
・港や横浜市内の歴史を知ることが出来て楽しかった(4)
・各施設での適切な説明があったこと(4)
・「はまどり」乗船企画が良かった(3)
・　資料が大変充実しており感激した(2)

“はまどり”への乗船

②最も印象深かったこと
・船から見た市内の風景(14)
・開港時の史跡、興味深く面白かった(6)
・象の鼻の専門的な説明良かった(5)

③もっと詳しく知りたいこと
・横浜市内の史跡もっと詳しく
・県博の建物などについてもっと詳しく
・高島嘉右衛門のこと
・外国人から見た開港当時の横浜について
・コースをまわる前にコース設定の目的などにつて説明が欲しかった

④来年以降の「探訪」でご希望の地域・テーマがありましたらご記入ください
・横浜市内の地域を順に探訪したい
・幕末から明治にかけて横浜港の詳しい歴史
・浦賀開港時の状況
・横須賀、川崎の歴史遺産の見学
・神奈川・保土ヶ谷・戸塚・藤沢の各宿場
・鎌倉市内の遺跡


中居屋重兵衛屋敷跡の前で

⑤学習会、運営委員会等に関するもの
・役員の方に大変ご苦労をお掛けします。感謝です(3)
・１年間ご苦労さま、“わ”の輪を広げよう
・役員の皆様方の方針を支持します
・ガイドはもっと詳しく説明を
・ガイドはゲストの方を向いて話した方が良いと思う

分科会代表からの便り

「浮雲俳句会」抄録 No.7

「浮雲俳句会」代表　北野 清市(一清)

今年度の兼題

今年（H２１年・２００９年）は、＜横浜開港１５０年＞の記念すべき年。安政６年６月２日(１８５９年７月１日)横浜は、日米修好通商条約に基づき開港した。これに伴い開港前、戸数「僅かに百に過ぎず」と言われた半農半漁の村が、今や人口３６０万人余のわが国第２の都市へと発展したのだ。

従って、わが浮雲俳句会では、＜横浜開港１５０年＞記念にタイアップし、“海をキーワードにした兼題”――　例えば本年中では、海の日（７月）・東京湾(９月)・黒潮(１１月)・波止場（１２月）――を今年度の兼題に定めた。

この第一弾が第３１回例会の兼題「海の日」。この経緯であるが、①「海の記念日」----- 明治９年明治天皇が函館から灯台視察船＜明治丸＞に乗船され、７月２０日に横浜港へ帰着されたことに因み、昭和１６年(１９４１年)に制定された。②現在の祝日「海の日」―― ＜海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う＞ことを趣旨に、平成８年(１９９６年)再度名称を変えて制定された。

海の日や開港記念の波止場街　　一清

３２回例会(第３回浮雲吟行会)

１０時半、モノレール「鳥浜駅」集合。“横浜ベイサイド”の吟行。午後の句会は会場を区役所１Ｆ に移し２時間程度で終わった。

今回の吟行会は、＜横浜開港１５０年＞記念にタイアップし、海と人とのふれあいの場＝区内白帆の“横浜ベイサイド”だ。“横浜ベイサイド”は平成８年(１９９６年)開設。２つの顔(ゾーン)がある。①マリーナゾーン------係留可能１，５００隻・目下１，２００隻が停泊中の日本最大のマリーナ。
②ショッピングゾーン------アウトレット専門店中心の８５店舗の一大ショッピングゾーン。

千本の檣頭揺らぎ野分雲　　一清

広重忌(３３回例会の兼題)

浮世絵師安藤広重の忌日・安政５年９月６日(陰暦)没。

“広重”と言えば、私ども金沢区の住民としては、“広重”の『金澤八景絵図』が浮かんでくる。

そして、“広重”の描いた『金澤八景絵図』を見ていると、絵とともに気になるのは、それぞれ８枚にある和歌である。古文書書きで読みづらいので、現代風にアレンジし、伝統俳句に則って自己流に挨拶句を添え、“広重”に対する畏敬の念の一端としてみた。

洲崎の晴嵐

（和歌）

賑へる洲崎の里の朝けぶり
　晴るる嵐にたてる市人

（俳句）

野分過ぎ洲崎に戻る朝の市　　一清（以下同じ）

瀬戸の秋月

（和歌）

よる浪の瀬戸の秋月小夜更けて
千里の沖に澄める月影

（俳句）

寄る波の瀬戸の小夜更け小望月

小泉の夜雨

（和歌）

かぢまくらとまもる雨も袖かけて
涙ふる江の昔をぞ思ふ

（俳句）

秋思いま「小泉の夜雨」の舵枕

乙舳の帰帆

（和歌）

沖津舟ほのかに見しもとる梶の
乙舳の浦にかへる夕波

（俳句）

乙舳へ帰帆ちかづく秋の暮

称名晩鐘

（和歌）

はるけしな山の名におふかね沢の
霧よりもるる入りあひのこゑ

（俳句）

称名寺一打の鐘に秋惜しむ

平潟落雁

（和歌）

跡とむる真砂に文字の数そへて
しほの干潟に落つる雁がね

（俳句）

平潟の干潟に落つる雁の声

野島夕照

（和歌）

夕日さす野島の浦に干す網の
めならぶ里のあまの家々

（俳句）

秋夕焼野島百軒照らしけり

内川暮雪

（和歌）

木陰なく松にむもれて暮るるとも
いざしら雪みなと江の空

（俳句）

松籟の音に「内川の暮雪」かな

出典:「金沢八景(歌川広重画)」は神奈川県立金沢文庫発行の絵葉書

《第３１回例会》　Ｈ２１年7月２６日

［秀　　作］

天賞　**白南風や神事の二艘競舟　　二祥**

富岡八幡宮の例大祭の祭句。このうち「祇園舟」は、横浜市の無形民族文化財の第１号。青茅を束ねて作った「祇園舟」を富岡の船溜から二艘の舟で沖合いまで運び、一年の罪や穢れを託して流す神事である。

これを富岡八幡宮の氏子である作者が見事に詠い上げたのである。具体的には、7月１２日のご当地の祭礼のクライマックス＝“舟渡御（ふねとぎょ)”を＜神事の二艘競舟＞ととらえたのである。殊に＜競舟（くらべぶね）＞の措辞の発見により、ダイナミックな祭を醸出した力量に感銘した。

地賞　**湖の黙を切り裂くボートかな　とも女**

リズムの非常によい一句一章の叙情詩。特に中７の＜黙を切り裂く＞という表現が抜群で、これにより静まり返った湖とそれを＜切り裂く＞＜ボート＞の軋む音の対峙が鮮明に描かれた。

なお掲句は「西湖」でのもの。勿論「西湖」は富士五湖の一つ。その南側には青木ヶ原樹海が広がり、富士五湖の中でも観光化が進んでいない湖である。

人賞　**海の日や「観光丸」が蘇る　岩介**

“扉”で紹介した「今年の兼題」＝海をキーワードにした第一弾。＜「観光丸」＞は木造・蒸気機関の砲艦。安政２年（１８５５年）オランダから幕府へ贈呈。わが国の軍艦の嚆矢である。昭和６２年長崎で復元されたが、ジョン万次郎などが乗船した咸臨丸（２番目の軍艦）とともに、富国強兵の国策のもと海の防衛の先駆けとなった。この＜「観光丸」＞が海の日に蘇ったのである。

〔特選〕

日曜の午後の参禅蝉時雨　　一馬

夏旺ん薄暮を照らす数多星　　一悦

目薬の二滴外れて二重虹　　勇平

万緑や風の形に湖光る　　十九

《３２回例会（第３回浮雲吟行会)》　Ｈ２１年８月３０日

［秀　　作］

天賞　**台風の雲色映し海騒ぐ　　十九**

当日の“横浜ベイサイド”は、台風１１号が八丈島付近を北上中で時化（しけ）模様の中の吟行であった。それだけに、わが国最大のベイサイド・マリーナも風雲急を告げ、係留船のマストも乱れ、＜海騒ぐ＞状況下であった。従って、船のオーナー達は、自分のヨットやクルーザーの安全が気掛りで、港のなかを見廻っている姿が散見された。

地賞　**厄日前小雨煙ぶるやベイサイド　勇平**

季語＜厄日（やくび）＞を活用した嘱目吟。

『広辞林』によれば、「忌み慎むべき日・災いのありがちな日（二百十日・二百二十日など）とある。一方歳時記によれば、厄日はすでに明暦2 年の『伊勢暦』記述。この頃には暴風雨が起こりやすく、丁度稲の開花時期のため、農家が忌み嫌ったとある。このように歳時記による厄日の由来は、農業からきていると指摘されているが、海事関係においても全く同様だといえる。

この点、＜**有明の海青すぎて厄日前　若狭男**＞という句があるが、掲句も＜厄日前＞であるものの＜小雨＞が＜煙ぶ＞って、台風の兆候のある＜ベイサイド＞を大変心配しているので

ある。

人賞　**葉鶏頭空にはためく入港旗　好童**

＜葉鶏頭（雁来紅ともいう）＞＝熱帯アジア原産。高さ１米ほど。葉は互生して長円形で雁が来る頃に葉の色が美しく変り、黄や紅などを呈して目を奪うようになる。葉の色が花のように美しいところが眼目の一年草。

掲句はショッピング街からマリーナ側を嘱目したもの。ショッピング街の歩道上のプランターの＜葉鶏頭＞を通し、マリーナ側に目を移すと、＜入港旗＞が＜空にはため＞いていたのである。＜葉鶏頭＞を透かして海側のマリーナの様子をうまく描いた吟行句だ。

〔特選〕

秋雨や包むハーバーアメリカン　一悦

中古艇値段表あり残る海猫　一馬

秋曇り異国情緒のベイサイド　重九

人疎らアウトレットに秋の雨　一幸

《第３３回例会》　Ｈ２１年９月２７日

［秀　作］

天賞　**月光の押し出す野島広重忌　とも女**

先ず、忌日俳句作句上の留意点。①別の季語を読み込む。―― 俳句は一句一季語が原則であるが、忌日俳句では、当該忌日の季節にふさわしい季語を詠み込み、いわゆる“季重ね”にすることがエチケット。――　②畏敬の念を表す。

―― 単にその日がその人の忌日だからと何の感慨も無く詠むのではなく、想いを込めて読むことが肝心。――

次に、掲句は前記「作句上の留意点」をすべてクリアーしていることは勿論。具体的には＜月光＞という季語を活用して、広重の忌日（陰暦９月６日）の仲秋をクローズアップさせ、加えて広重の『金澤八景絵図』中「瀬戸秋月」を連想する＜月光の押し出す野島＞と表記して、広重に対する畏敬の念を彷彿させる巧みさに感心した。

地賞　**かなかなや音階一つ乱れなし　勇平**

蜩（ひぐらし）の声と音楽の融合した秀句。蜩は初秋の深い森で朝と夕方に鳴く。その声は“カナカナ・カナァ・カナァ……”と強弱をつけ、いかにも秋の哀愁を感じさせる。このさびしい感じを与えることについては、『和漢三才図会』に「晩景に至りて鳴く声、寂寥たり」とある通りである。飯田蛇笏は＜**かなかなの鳴きうつりけり夜明け雲**＞と、また久保田万太郎は＜**ひぐらしに燈火はやき一と間かな**＞と詠っている。この点掲句は、上 5 に＜かなかなや＞と主体となる蜩の声をドカッと据え、「や」切りに省略。続けて中７・下５で＜音階ひとつ乱れなし＞と音楽的に断定。この世の調べとも思われぬ、蜩の声を音楽的に解明した業に感銘を受けた。

人賞　**背に木遣二百十日の東京湾　三旦**

地元「野島の汐祭り」を見事にキャッチした祭り俳句。この祭りは９月１日金沢漁港界隈で挙行。２０隻余りの小舟に大漁旗を飾り、笛･太鼓のお囃子にあわせて舟を沖へ。大漁と海上安全を祈願するもの。　掲句は、海上の祭りにタイアップして、港付近の陸（おか）の行事に焦点を当てたもの。＜背に木遣＞を担いで、海上の祭りを盛り上げているご当地の秋祭の景がよく描かれている。しかも、この日は台風１１号一過の９月１日＜二百十日（厄日）の東京湾＞なのだ。

［特　選］

流れ星東京湾を袈裟斬りに　一悦

茜さす初雪の富士広重忌　十九

高窓に瀬戸の秋月広重忌　一馬

秋の潮藍より青し野島沖　一幸

会員の寄稿

ポンコツ人生を楽しく生きよう

内田　新二

ある「宗教思想家の先生」の講演を聴く機会があった。「日本の老人の服装は一般に地味です。それにくらべて、西洋の老婦人は、こちらがちょっと顔をそむけたくなるほど派手な服装をしています。実をいえば、彼女らは、あれでもって『老い』と闘っているのです」。

さらに、「キリスト教の文化は、本質的に闘いの文化です。したがって、闘うべき相手は『老い』ばかりではなく、『病』とも闘います。病人は、俺は病気になんかに負けるものかと闘いながら生き、その闘う姿に人々が拍手喝采を送り、励ますのもキリスト教文化です」と、先生は語った。

老いや病と闘って、人間が勝つ訳がなく、負けます。私自身、70 歳も過ぎ、「ポンコツ」「老い」の身。手入れをしていても、体の部品も 70 年以上使うと摩耗し、何時の間にか老いと病の隣り合わせのボケ仲間に加入している。

だけど、いくら科学や医療が進んでも、老いと病に勝とうと闘う気持はさらさら無い。それよりも、型にはまらず、フランクに生きたい。すなわち、「しょぼくれ」て気楽に生きたい。これも一つの哲学かな。我流だが。

「しょぼくれ」とは「無理するな」「頑張るな」だ。たとえば、年老いても性欲旺盛な方は、無理に抑制する必要はなく、「いやらしい」と言われても、にたにたしていればよい。性欲が枯れてしまった方は、無理に頑張る必要はない。それでよいのではないか。

「しょぼくれる」ということは、ある意味では「世間の都合に対する遠慮、気兼ねを捨てる」こと。我々は世間の都合に対する遠慮、気兼ねで生きてきた。戦時中の日常生活では、「欲しがりません。勝つまでは」と禁欲を、戦後は「贅沢は素敵」と浪費を強いられ、また、会社では、会社の都合への遠慮、気兼ねで残業し、家庭を返り顧みることも出来ず、家庭を潰され、最後に会社の都合でリストラされた。そんな世間の都合に流されながら、「無理して」「頑張って」人生を送ってきた。もういいではないか。いままで世間に奉仕してきたのだから。

老年に達した今は、こんどは「私達の都合」を優先させよう。世間の方は我々老人には元気ハツラツでいてほしい。そうすれば手が掛らない。でも、あまり元気で無い方は無理にハツラツぶることは必要ない。世間に遠慮、気兼ねをしないで、もつとしょぼくれて楽しく生きて行こうではありませんか。

また、これからは、感謝の心を持ちましょう。感謝の心があれば欲が無くなる。いや反対かもしれません。年寄りというのは、あんがい欲深いのかも知れません。いつまでも長生きしたいと誰しも思っている。「ああ、ありがたいな。もう十分に長生きさせてもらい、元はとった。」と思えば感謝の気持ちになれると思う。

ただし、感謝の気持は世間に対しではなく、世間には遠慮、気兼ねをしないこと。感謝の気持が、私達年寄りを幸福にさせてくれます。

ちょっと欲を少なくして、ポンコッ人生をしょぼくれて、楽しく生きようではありませんか。

「かねざわの歴史事典」余話 2

「土地宝典」について

かねざわの歴史事典編集委員長　熊谷　哲

『かねざわの歴史事典』補訂版の付属資料に「古い地名」を追加するための調査過程で「土地宝典」という史料に巡りあいました。「土地宝典」は「土地利用明細便利帳」ともいうべき地図帳で、今や消えてしまった古い地名(字名や小字名)が克明に記録されています。概要と我が町関連を紹介します。

Ⅰ 「土地宝典」とは

「土地宝典」は法務局にある「公図」と「土地台帳」を一つにまとめたようなものです。公共機関の発行ではなくて、私的に発行された刊行物です。地主層が土地所有状況明確化の必要性から資金を出し合って作ったものです。市町村単位で作成されています。

冊子の最初には目次があり、夫々の市町村の沿革・現況・地積・人口などを記載。次に全体図があり、町村や字(あざ)の区分図としています。

その後に字または小字(こあざ)単位の明細図が数十頁あり、一筆ごとの面積や土地利用状況を克明に記入しています。作成された時期は、地租改正のあった明治前期、市町村合併の進んだ明治末期から大正初期、関東大震災による土地の変動後の昭和初期などです。

昭和初期までに 17 都府県で作られています。この内岐阜県と神奈川県内各市町村の発行度が高いが、理由は不明です。神奈川県内発行分は神奈川県立公文書館に 135 点保存、MF 化されています。

Ⅱ 金沢区の「土地宝典」

昭和 6 年(1931)発行の『金沢町土地宝典』と『六浦荘村土地宝典』があり、現在の金沢区全域をカバーしています。サイズは縦 40cm、横 30cm で、前者は 31 頁、後者は 36 頁。構成は目次、町村全体図、区割り図から成る。金沢町は富岡から洲崎までの旧金沢町。六浦荘村は釜利谷、峠、三分です。

目次には町村の地勢・沿革、人口、学童数、反別表と賛成者名の記載があります。賛成者名簿は町村の有力者の名が連なっているが、横須賀鎮守府、東京湾要塞司令部、磯子警察署なども記載されており当時の時代を反映しています。

町村全体図は字名とその境界を明確に示し、海、河川、道路、鉄道(湘南電鉄)、寺院などを記入してあります。区割り図は細分した地域図となっており、一筆ごとの地番、反別面積、家屋表示などが克明に記入されています。「ゼンリン住宅地図」から個人名を省き、面積や土地利用状況を記入したような地図帳です。

現在の地図と重ね合わせて見ると変化の凄まじさに驚嘆するばかりです。

両宝典記載の人口は 10,205、戸数 1,840、学童 1,772。因みに平成 21 年の金沢区の人口は 210,113、世帯数 86,970、小中学校生徒 17,607 であり、隔世の感があります。

『金沢町土地宝典』は県立公文書館に原本があり、県立図書館・県立金沢文庫・市立中央図書館に複製版があります。『六浦荘村土地宝典』は県立金沢文庫と市立中央図書館に複製版があります。

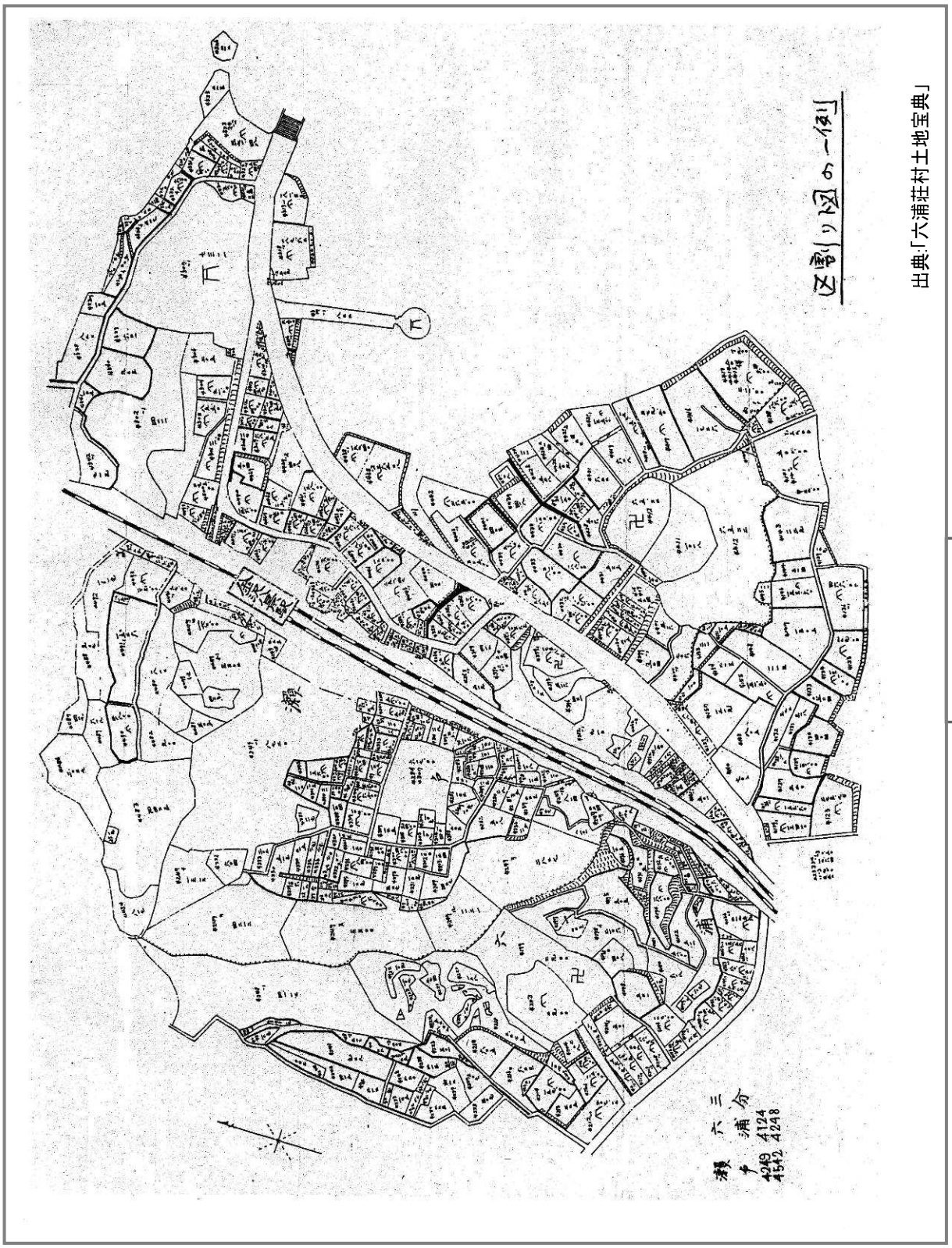
区割り図の一例として、金沢八景駅付近の図

を添付します。地番は英数字で、地積は和数字で記入されています。神社仏閣から現況との対比が出来ます。

参考文献

○「土地を読む―土地宝典の世界―」神奈川県立公文書館ミニ展示解説パンフレット（平成17年）

○大羅陽一「準公図としての土地宝典について」日本地理学会報告レジュメ(1985)



出典:「六浦荘村土地宝典」

金沢八景付近の図

行事予定

２０１０年2月までの予定　　注：表中の「 CC 」は、「 地区センター 」の略

	2009 年 12 月	2010 年 1 月	2 月
学習会	（予定なし）	（予定なし）	2 月 20 日(土) 9:30～12:00 能見台 CC 特別公開講座：「江戸名所図会」にみる金沢八景
寺社を巡る会	12 月 3 日（木）集合:10:00 大船駅(南口)、テーマ：鎌倉：笛田・手広地区、行動：青蓮寺（鎌倉山笛田公園）～子守神社～常盤亭跡	1 月 7 日（木）集合:10:00 大船駅(南口)、テーマ：藤沢・東部地区、行動：御霊神社）～弥勒寺～天獄院～村岡城～二伝寺～久成寺	2 月 4 日（木） 集合：10:00　会場未定 テーマ：座学:未定
古文書を読む会	12 月 10 日(木) 金沢公会堂 生麦殺傷事件 12 月 24 日(木) 金沢公会堂 谷津村小泉家文書	1 月 14 日（木）金沢公会堂 生麦殺傷事件 1 月 28 日（木）金沢公会堂 谷津村小泉家文書	2 月 4 日（木）金沢公会堂 古今集 仮名序 （変体仮名） 2 月 25 日（木）金沢公会堂 金沢区鈴木家文書
ふれあいの道歩こう会	12 月 11 日（金）総会 12 月 17 日(木) 栃木ｺｰｽ ⑪ 桜咲くパノラマのみち （雨天の場合:12 月 18 日）	1 月 21(木) 千葉コース ⑰ 御宿海岸を歩くみち （雨天の場合：1 月 22 日）	2 月 18(木) 千葉コース ⑱ 荒磯のみち ⑲ 理想郷をたずねるみち （雨天の場合：2 月 19 日）
懐かしの映画を観る会	12 月 8 日（火）能見台 CC イル・ポスティーノ(伊) 12 月 21 日(月) 能見台ＣＣ 男と女 （仏）	1 月 11 日（月）能見台ＣＣ 隠し砦の三悪人 （東宝） 1 月 25 日（月）能見台ＣＣ イヴの総て （米）	2 月 8 日(月) 能見台ＣＣ 夫婦善哉 （東宝） 2 月 22 日(月) 能見台ＣＣ 砂の女 （独立）
浮雲俳句会	12 月 27 日（日）9：30～ 会場:区民活動センター、第 35 回句会、テーマ：波止場、歳晩の様子に想いを馳せる	1 月 31 日（日）9:30～ 会場:未定、第 36 回句会、 テーマ：港、 海上交通の拠点を謳う	2 月 28 日（日）9：30～ 会場:未定、第 37 回句会、 テーマ：舟 釣舟･海苔舟など小舟を追う
パソコンを使いこなす会	12 月 1 日(火) 金沢公会堂 WORD 基礎講座：年賀状(2) 12 月 15 日(火) WORD 基礎講座:カレンダー	1 月 5 日(火) WORD 基礎講座：同窓会往復はがき 1 月 19 日(火) WORD 基礎講座：町内会議のお知らせ	2 月 2 日(火) EXCEL 基礎講座：医療費纏め表 2 月 16 日(火) WORD 基礎講座：地図入り文書(1)
	9:30～12:00：金沢公会堂	9:30～12:00：金沢公会堂	9:30～12:00：(会場未定)

連絡先：学習会 782-8147(小俣)
古文書を読む会 784-3420(岡田)
懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
パソコンを使いこなす会 701-9775(林)
寺社を巡る会 784-1460(松本)
ふれあいの道歩こう会 783-4539(宮原)
浮雲俳句会 774-3878(北野)

編集後記

今年もはやカレンダーの残りが少なくなってきました。“わ”の会の 10 周年記念事業として活動して頂いています３つの委員会の報告から、いよいよ最終コーナーにかかり膨大な作業量の活動をものともせず、頑張っておられる様子がよく判りました。その完成をまたこの会報で報告できる日を楽しみにしております。(TY)

発 行 日	平成 21(2009)年 11 月 14 日
発行周期	４回/年（2、5、8、11 月）
発 行 者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集責任者	小 岩 克 介